

1 令和2年度の学校評価

1 令和2年度の重点目標

- (1) 充実した学習活動の推進
- (2) 信頼され、人のために行動できる人材の育成
- (3) 望ましい未来像設計（フューチャーデザイン）の啓発
- (4) 教職員の多忙化解消

2 重点目標の達成に向けた各分掌の重点目標、具体的方策と評価

- (1) 生徒の学びに向かう力を育て、学びを持続させるための授業改善について

主な取組	自己評価結果と改善方策案
(ア) 授業規律の確保による学びに向かう力の育成 【教務部・保健厚生部 生徒指導部・各学年】	<ul style="list-style-type: none">・多くの生徒が授業規律を守ることができたが、一部の授業では厳しい状況もあるため授業規律の確保を最優先に、各教科が授業展開を工夫し、引き続き指導していく。・生徒の授業に対する姿勢は改善されてきたが、生徒がわかる授業を行うという点で課題が残った。来年度は学び直しの授業内容を含め、さらに授業改善に取り組む。・新型コロナウイルス感染拡大防止のためごみ箱を撤去し、ごみの持ち帰りの啓発をしたことでごみの減量につながった。来年度以降も継続して学習環境美化に務めていく。
(イ) アクティブラーニングによる主体的・持続的な学びの育成 【教務部・各教科】	<ul style="list-style-type: none">・話し合いの時間を設けたり、教え合う時間を設けたりする授業もあったが、全体的には生徒が受け身になっている部分が多い。来年度はCYOD、BYODを取り入れた授業などの各種研修や他校の公開授業に参加し、各教員がさまざまなアクティブラーニングの手法を学び、授業実践に生かす。・低学年において、学び直しの授業内容を取り入れ、持続的な学びができるように工夫した。来年度は学力が低い教科を中心に組織的な学び直しの指導体制を構築する
(ウ) 学力に応じた評価方法の工夫と実践 【教務部・各教科】	<ul style="list-style-type: none">・各教科が生徒の状況を的確にとらえ、観点別評価を見直し、学力状況に応じた評価活動を進めることができた。来年度はさらに、評価方法の工夫を行う。・学習の取組状況についての情報共有はできたが、生徒個々への組織的な指導については課題が残った。来年度も継続していく。また、学習意欲が高い生徒の力も伸ばす指導を行う。
(エ) 新学習指導要領に準拠した教育課程の編制 【教務部・各教科】	<ul style="list-style-type: none">・教科主任者会を毎週行った結果、各教科の意見を適時に聞くことができた。多様な生徒に対して、選択科目や学校設定科目をつくるなど令和4年度に向けて準備を進めていく。

(2) 信頼され、人のために行動できる人材の育成

主な取組	自己評価結果と改善方策案
<p>(ア) 教師との信頼関係を深め、生徒の心に響く生徒指導の推進 【生徒指導部・各学年】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響により、面接週間以外の面接の時間が取れなかったが、学校生活アンケートを面接週間前に実施し、アンケート結果を面接に反映させることで初期対応を明確に行い、早期に把握、対応できた。 ・教員と生徒が挨拶を交わす姿が多く見られるようになった。授業の開始と終了の挨拶もきちんとできるようになった。 ・生徒指導を中心に常に連携を保ち、生徒と保護者に寄り添った指導を行うことができた。引き続き全校的な生徒指導を行うため教員間で生徒情報の共有を綿密に行い、各学年と関係各分掌が連携していく。
<p>(イ) 礼節を重んじ、他に対して親切であり、責任を持った行動がとれる生徒の育成 【生徒指導部・各学年】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年から全学年が新制服になり統一した指導ができた。朝のSTでの身だしなみ指導、携帯電話の預かり指導は徹底できてきている。教員の声かけにほとんどの生徒が適切な態度で対応した。 ・遅刻者に対する説諭や早朝登校指導により、遅刻指数が年々減少している。 ・携帯電話の夜間の自粛や情報モラルについて、集会等が開くことができなかったが来年度以降も携帯電話に関するトラブルを防止していくために継続的に指導していく。
<p>(ウ) 自己有用感を高め、帰属意識や愛校心を醸成する。 【特別活動部・生徒指導部 教務部・総務部・進路指導部 保健厚生部・各学年】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・創立50周年行事での参加の姿勢から、母校を大切にしようとする思いが感じられた。 ・新型コロナウイルスの影響で、学校行事が中止や延期になり大幅な予定変更を余儀なくされたが、限られた環境の中で積極的に参加する姿が見られた。また、中学生の体験入学では、生徒が前面に出て活躍し、自己有用感、帰属意識を高めることができた。引き続き生徒の努や活躍を生徒同士が称え、認め合うことができる場面づくりを行い、豊かな心を育てたい。
<p>(エ) ボランティア活動や、地域貢献活動、学校行事や部活動等による活力の発現 【特別活動部・生徒指導部 各学年】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響で、地域清掃活動、地域交通安全啓発活動、ボランティア部による社会福祉貢献活動、国際貢献NPO法人への協力等、地域社会に向けて様々な活動を中止とすることになった。状況によるが来年度は積極的に参加させたい。 ・実行委員会と生徒会が連携を持って活動し、全校生徒の活動を支えた。 ・部活動参加率は、1年生は82.6%、2年生は52%パーセントである。目標の数値には達成できなかったが、参加率が年々高くなっている。

(3) 望ましい未来像設計（フューチャーデザイン）の啓発

主な取組	自己評価結果と改善方策案
<p>(ア) 進路検討会や生徒面談を通して一人ひとりに合った進路指導の充実 【進路指導部・教務部・各学年】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生は4月に新旧担任会、8月には推薦入試について、11月に主に一般入試について進路検討会を実施した。1,2年生は学年会中で基礎学力診断テストの結果を確認することができた。補習については、各学年、教科で積極的な働きがけをすることができた。来年度は、各種の模試や適性検査の妥当性を検討する。 ・新型コロナウイルスの影響で、進路行事の日程や方法の変更はあったが、保護者向け、生徒向けともに大方実施することができた。引き続き、担任と保護者の連絡を密に行い、保護者の進路意識を高めるための情報提供を工夫し積極的に行う。
<p>(イ) キャリア教育（インターンシップ・学校祭・総合学習等）による自己発見と自己開発 【進路指導部・特別活動部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・JAPAN e-Portfolioは8月に運用が中止されたが、インターンシップ、学校祭、総合学習等での活動を記録し自己発見と自己開発ができるように各自のポートフォリオの校内システムを構築する。 ・新型コロナウイルスの影響で、インターンシップは中止となったが、総合学習において振り返りの時間を設け、取組を省みることで、次の活動の心構えを高めることができた。
<p>(ウ) 具体的なキャリアデザインのための講演会や進路ガイダンスの充実 【進路指導部・各学年】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生は外部講師による小論文や進路状況に見合った学校説明会のガイダンスを実施することができた。2年生はリモートによる進路講演会を実施した。来年度も、講演者や講演時期、方法の検討と工夫を行い引き続き、事前指導に力点を置き、キャリア意識を高め、積極的に参加させる。

(4) 教職員の多忙化解消

主な取組	自己評価結果と改善方策案
<p>(ア) 校内組織の再編による業務分担の整理と統合 【各分掌・教科】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・分掌や各種委員会の機能や業務内容を確認し、全体の業務量と業務配分の適正化及び分散化を行うことが必要である。学校規模が小さくなるので、引き続き分掌や各種委員会の機能や業務内容を再確認し、再編を検討するとともに、全体の業務量と業務配分の適正化及び分散化を検討し多忙化解消へ向けた取組を行う。
<p>(イ) 定時退校日の見直しと活用、ならびに日常の学校開錠時間の短縮化 【教頭】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定時退校日だけでなく、日常から声かけを行った結果、時間内に仕事を終える意識が高まった。引き続き声かけを行っていきたい。 ・超過時間の多い教員は大幅に減少した。来年度は0を目指す。 ・「働き方改革関連法案」を順守することでワーク・ライフ・バランスを整え可処分時間を充実させる。
<p>(ウ) 部活動ガイドラインの実施による教員の指導負担の軽減 【特別活動部・各部活動】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の特性により多少の差はあるが、分担体制での指導が行われている。 ・部員数の減少に伴い、効率的な活動ができない部活動もあった。各部活動の活動方針や計画を見直し、生徒の持続的な活動と各部顧問の多忙化の軽減を図る。

(5) 学校関係者評価委員会でのご意見

- コロナウイルス感染症の影響で、様々行事が中止なり残念である。ただ、この機会に各行事の目的をもう一度考えることが大切である。
- 自信を持って物事にあたることのできる施策が大切である。行事だけでなく学習面で自信を持たせる取組を期待したい。
- 先生と生徒が充分コミュニケーションを取り、規律正しい生活をしてもらいたい。
- コロナウイルス対策は十分おこなわれている。
- 生徒数に対して進路が多様化している。学校に求められるスキルや経験にも限界があるのでは。県や稲沢市などの外部協力が必要ではないか。
- BYOD、CYOD についてタブレットを利用した授業を積極的行ってほしい。
- 50 周年記念式典がおこなわれたことはうれしく思う。
- 50 周年記念オリジナルソング CD は大変おもしろい企画だと思う。